

## BOSF プレスリリース【日本語訳】

オランウータンのリリースのために開かれた森林生態系回復の使用権

インドネシア林業省は、生態系回復使用権（ERC）を株式会社 RHOI（PT.Restorasi Habitat Orangutan Indonesia）に最後の容認について発表しました。PT.RHOI はリハビリを終えた元捕虜のオランウータンを還す、最後のリリースのために道を切り開いています。

PT.RHOI は、ボルネオ オランウータン サバイバル財団（BOSF）によって、生態系回復のために、伐採された森林の使用権を取得する目的として設立された。最近では、獲得した区域は、東カリマンタンのクタイ県カルテナガラ区域とクタイ県ティムール区域の 86,450 ヘクタールで以前に伐採された区域です。

権利過程の最終的な採点する式典は、ジャカルタで 1 月 18 日（火）11:00～14:00 まで開催されました。イベントは BOSF の CEO トグ・マヌルング博士と BOSF 理事長ブンガラン・サラギ博士、PT.RHOI の代表マルズキ・ウスマン氏によって開催されました。

このイベントは、インドネシア林業省やインドネシア国会の 4 つの委員会のメンバーと BOSF 寄贈者で地域や世界の NGO、団体が出席されました。

“私たちは次の 60 年間まで使用権区域の使用料を全額お支払いします。”と BOSF 理事長ブンガランサラギ博士は答え、捕虜となっているオランウータンを野生へ還すミッションについて発表した。BOSF は、数年で 1000 以上のオランウータンを救い、リハビリを行っている。しかし、彼らが還る自然の環境は、適した生息地不足によって阻止され続けていました。

“BOS 財団が進めている公約は、ボルネオの野生にいるオランウータンの生態系を保護することだと確信しています。”と BOSF CEO のトグ・マヌルング博士は言います。そして、その生態系の権利を通して、絶滅から救えるボルネオのオランウータン種ができたと付け加えた。“私たちは、この使用権に関してご寄付して頂いた皆様に感謝申し上げます。森林の保護だけでなく、インドネシアの類型的な野生のシンボルとして影響することになると予想されます。

自然のオランウータンの生息地は、違法伐採や無制限な農地開拓、森林火災によって数年以上組織的に破壊されてきました。生息地の減少は密漁や違法な取

引から脅かされた場所はオランウータンが最も住みやすい場所であった。たくさんのオランウータンが、完全に人間のペットとして捕虜となりました。かつて、救われたオランウータンは、森に還る時のために野生生活の能力を身につけるトレーニングをしなければなりません。これには何年もの月日がかかります。

**BOSF** では、近々東カリマンタンのオランウータンリハビリセンター、サンボジャ・レストリで訓練をしたオランウータンを還す計画が始まりました。**BOSF** は、中央カリマンタンのニヤイルメンテンでリハビリしているオランウータンの最終的なリリースのために、中央カリマンタンで保護の **ERC** の取得を交渉していきます

**BOS 財団**